

令和5年度 島根県学力調査結果及び分析

松江市立第四中学校

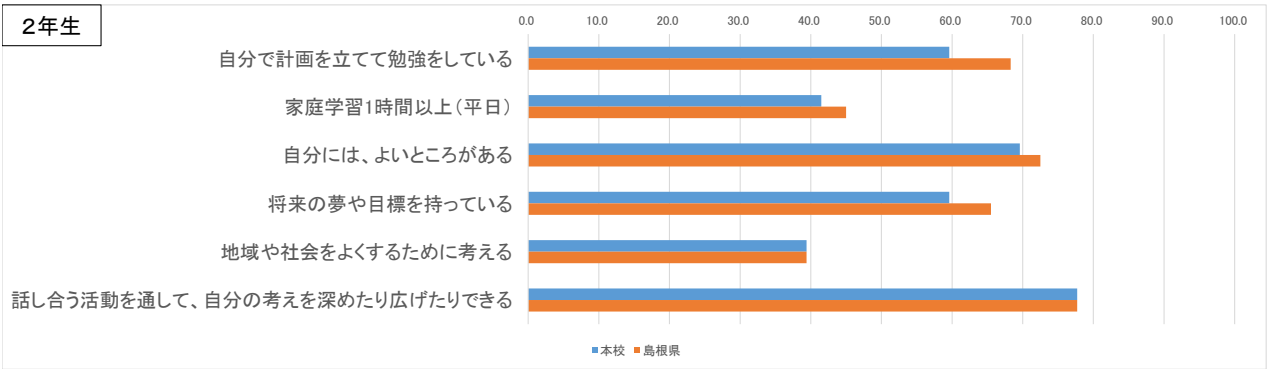
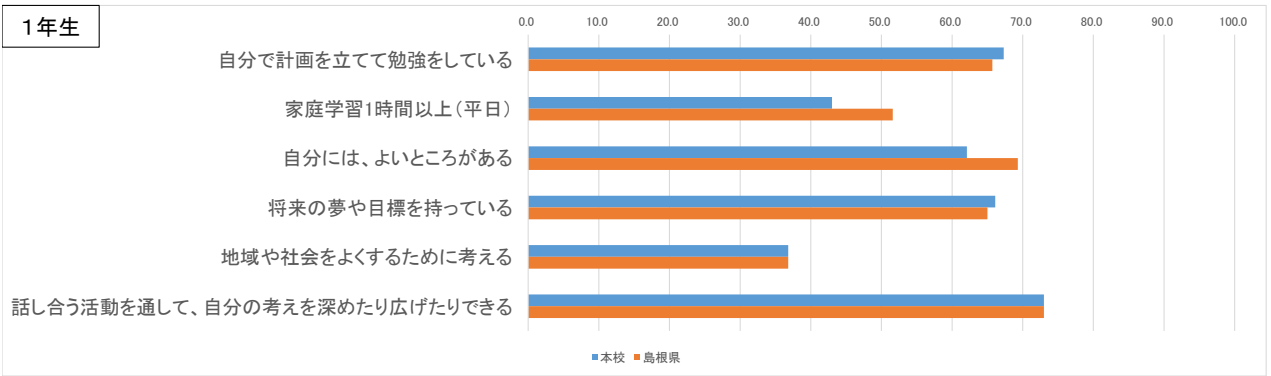
【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
国語	○「話すこと・聞くこと」の領域の正答率が高く、人の話や会話の内容を正しく聞き取れている。 ●「書くこと」の領域の正答率が低く、文章を書くことへの苦手意識をもつ生徒が多い。 ●「我が国の言語文化に関する事項」に課題が見られたので、四字熟語や慣用句などの学習を通して生徒の関心を引きながら語彙力を養っていきたい。	○「説明的な文章の内容を読み取る」設問の正答率が目標値よりも8ポイント高く、情報の読み取りや、段落の役割について捉えることができています。 ●「記述問題」について、どの設問も正答率が目標値と比べて低く、「書くこと」が苦手であると分かる。また、これらの設問については無回答率も高く、間違えてもよいから書いてみようという意欲も育てていく必要がある。
数学	○基礎の正答率は50%を上回っている。 ●基礎的な計算能力や文字式のルールが定着していない。 ●既習事項が定着しておらず、直前で学んだ学習内容もどこで活用するのかがわからない傾向がある。	○「数と式」についての基本的な計算は、概ね定着している。 ○「知識・技能」の問題では全国平均や県平均を、「活用」の問題ではそれぞれ県平均を上回っており、おおむね良好といえる。 ●身に付いた「知識・技能」を活用する場面の判断や問題の読解力の低さに課題がある。 ●図形や関数の問題に苦手意識がある。
英語	○英文を聞き取る力は付いてきている。 ○語彙の知識・理解は定着してきている。 ●場面に応じて正確に英語を書く力をつけていく必要がある。	○まとまった英文を聞いて内容を理解する力は付いてきている。 ○語彙の知識・理解は定着してきている。 ●与えられたテーマに沿ってまとまりのある英文を書く力を強化する必要がある。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
意識	○定期テスト前など自分で計画して学習を進めようとする生徒の姿がある。 ○各教科で話し合い活動を取り入れることで、互いの意見を聞き合い学びを深めている。 ●家庭学習の習慣化、内容の充実のために取組の改善が必要である。	○総合的な学習の時間の探求的な学習で地域の比較を行ったことが、地域や社会をよりよくしていきたいという考えにつながっている。 ●進路決定に向けて将来の夢や目標をもつことにつながる学習場面の設定が必要である。

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）



【R5学力調査受検者数】 1年生 175 名 2年生 197 名 (欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示)